

## 物語の内容を読み取る

正答数

5

できだがな



次の文章を読んで、下の問題に答えましょう。

うちゅう飛行士になりたいけれど算数が苦手な潤は、ある日、自分と同じように星の好きなおじさんと出会う。

算数の中に、星のかがやきなんであるもんか。数字も、数式も、ちつとも美しくなんかない。ただたいくつで、つまらないだけだ。

ぎゅっと口をむすんだまま下を向いている潤を見て、おじさんが言った。

「ちよつときみの筆箱を出してみてくれるかい。」

「その中に、うちゅうのひみつがかくれているから。」

うちゅうのひみつ!?

「いったい何を言い出すんだろう、このおじさん……。」

不思議に思いながらも、潤はかばんの中をさがしはじめた。潤の筆箱は、一年生のときから使い続けているマグネット式の両面筆箱だ。

「ほら、その筆箱の裏側のふたを、開いてごらん……。」おじさんのゆつくりとした、おだやかな話し声に、潤は何だかぼんやりとした気持ちになった。そうしておじさんに言われるがまま、うちゅうのひみつのとびらを開くように、筆箱のふたをそっと開けた……。

けれども、筆箱の中に入っていたものは、いつもの見慣れた三角定規だけだった。そのとき、

「その三角定規の内角の和は、何度になる?」と、おじさんが聞いてきた。

「え? ええと、一八〇度でしょう?」

「その通り。」

それからおじさんは、ゆっくりと右手を上げて夜空を指差した。

「それじゃあ、あの『冬の大三角』の内角の和は?」

「もちろん一八〇度だよ。」

「そう。きみの筆箱の中にある小さな三角定規の内角の和も、あの広大な夜空に広がる三角形の内角の和も、等しく一八〇度というわけだ。それはなんて美しいことだろう、と思わないか?」

(かんのゆうこ)「どびらの向こうに」より)

名前

番

組

年

月

(1) ①ぎゅっと口をむすんだまま下を向いている潤とあります。この様子から潤のどのような気持ちがわかりますか。次から一つ選びましょう。

- 1 算数を前向きに受け入れられない気持ち。  
2 算数を好きになろうと決意する気持ち。  
3 算数が苦手な自分がはずかしい気持ち。

(2) ②「……え? ?」とあります。このときの潤の気持ちとしてふさわしいものを、次から一つ選びましょう。

- 1 意外なことを言われてとまどっている。  
2 勝手なことを言われておこっている。  
3 無理な要求をされてこまっている。

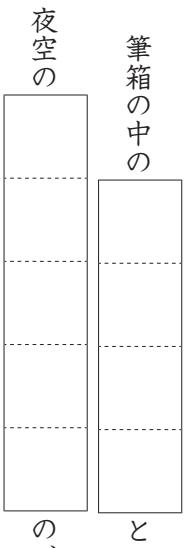
(3) ③うちゅうのひみつのとびらを開くようにとあります。このよくな潤の気持ちを表す言葉としてふさわしいものを、次から一つ選びましょう。

- 1 反省 2 期待 3 あきらめ 〔 〕
- ④なんのへんてつもじつと見つめたとあります。このときの潤の気持ちを表す言葉としてふさわしいものを、次から一つ選びましょう。

(4) ⑤それはなんても思わないか?とあります。おじさんはどのようなことを「美しい」と言っているのですか。〔 〕に入る言葉を文章中からぬき出しましょう。

- 1 いかり 2 おそれ 3 失望 〔 〕

(5) ⑥それはなんても思わないか?とあります。おじさんはどのようなことを「美しい」と言っているのですか。〔 〕に入る言葉を文章中からぬき出しましょう。



内角の和が等しいということ。

**物語の内容を読み取る**

(1)

1

(2)

1

(3)

2

(4)

3

(5)

三角定規・冬の大三角